

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
な か ま 編 集 係

〒285-0025
佐倉市 錦木町 198-3
電話 (043) 485-1801

2 ページ	縁	武内淳子	孫の入院	薄井 隆
3 ページ	五月雨	松井史郎	「エコライフ」のすすめ	佐藤征雄

アメリカの旅

栗 田 勢 子

昨年の九月、息子がシアトルに留学していたときの友人がコロンビアに住んでいるので主人と息子の三人で七泊八日の予定でアメリカへ出発！

シアトルではマリナーズの野球観戦の予定が試合がなかったのでレンタカーでハイウェイを走り、滝を見に山の奥の方へと…。その途中、鉄道公園があり昔この辺の広野を走っていた蒸気機関車、客車、貨車数十台。鉄道に興味のある主人は少年のように大喜びで写真をとり捲る。又西

海岸の銀色に光る水面を見ながら散策し、おいしいピザを食べ、シアトルの街をあちこち案内してもらおう。夜景を楽しむ、二日間日本とはちがう風景を堪能しシアトルとはお別れ。

三日目は寝台急行コーストスターライトで一日かけてゆつくり目的地地に行くことにな

った。朝十時に出発し時差惚けと多少の疲れも出て「ピポーピー」とのどかな汽笛を聞きながら四、五時間眠る。目覚めて見る車窓からの景色は見渡す限り只只広い大草原！右に左に牛が何十頭？豆粒のように放たれ草を食んでいる。

当然ながら英語の話せない私は何をすることも表現出来ぬもどかしさ、でも英語を習いたいとも思わない。やっと元気になりさわやかな朝日を見ながら汽車はサクラメント駅に着き一駅別の汽車に乗り、大草原をどこ迄も続く一本の線路、そこにぼつんと建つ小さな駅舎がモデスト駅。ここで二十四時間の汽車の旅は終わり。友人が迎えにきてくれ今度は車で百キロ以上のスピードでナッツ畑、ブドウ畑、数軒の家々を時々見ながら大草原を走り抜け標高七百呎の森

の中にある友人の両親の住むログハウスに到着。

翌朝森の奥から鹿の親子が家の前を通っても犬は吠えたりはしません、自然との共存を感じました。

近くには古にゴールドラッシュで栄えた小さな町があり今も銀行は使っているらしく、カウボーイも居たようです。又標高二千呎の所にある別荘の裏にはインディアンの使っていた大きな石のテーブルもあり、夏は星空を見ながら家族で過ごすのが楽しみと満足げに話す御主人！この人達は自然の中で心の贅沢を満喫しているのだと…。

息子以外の日本人には会ったこともなくお互いに言葉は通じませんでした。がすばらしい家族にあえたこと又貴重な体験が出来たことに感謝し、お礼に日本食を作りなごやかなホームパーティーも出来私の人生のページとなる思い出多き旅でした。

(編集委員)

縁

四、五歳の頃、よく祖母に連れられて成田山へお参りに

行きました。私の実家は都内なので今考えると祖母も小さな子を連れて、よくそんな遠くまで行ったものだと思います。いつも日暮里の駅から京成電車に乗って、しばらくすると、「あれがお化け煙突だよ。」と言われ、どれがその恐ろしい煙突なのか、恐怖で見えないように目をつぶりそのままそこから眠ってしまったように思います。目が覚めると田園風景、田んぼがあつて、向こうの森に「米屋」の看板が見え、一体ここはどこなのか？と思ったのは覚えていません。その場面から次は成田山に一気に記憶は飛び、たぶん当然お参りをしたのでしようがその覚えは全くないもの、境内のお店でなぜかいつもおもちの洗濯機を買ってもらったのは覚えていません。そう

して帰りはまた谷地の田んぼあたりで眠ってしまい、他は何も覚えていない、というのが私の京成電車や成田山詣での原風景です。

それから約三十年が経ち、偶然、佐倉の地に居を構えることになりました。小さい頃の記憶にある谷地は、ユーカリが丘と臼井の間だった、ということに気づきました。

佐倉で子供も成長し、自分も天職の仕事に復帰しました。小さい頃の記憶のある土地、偶然出会ったユーカリが丘の歯科医院で、ずっと以前から望んでいたように患者さんと関わり、地域の人たちへ予防歯科を広める仕事ができるのも、祖母とのお出かけの時から運命づけられていたのかな、という気がします。

(梁井野 武内淳子)



孫の入院

初孫が生れたのは、平成四年一月一日であった。なかなかの男前で順調な人生のスタートと思われた。しかし、その年の十一月、痙攣を起こして救急車に乗り母親の勤める病院に入院することとなった。

あとで分かったことだが、髄膜炎にかかっていた。入院の翌日病院を訪れたところ、十一ヶ月の乳児が、左腕に点滴の器具をつけられ、二十四時間ずっとそのままのことであった。乳児は血管を確保することが難しく、薬剤投与以外の時は栄養剤を注入して、点滴の器具をはずさないようだ。

三日目に見舞うと、孫は右半身が麻痺していた。看護師である嫁の話では、髄膜炎により麻痺となり、治らないこともあると言う。

ようやく生を受けて、一年にも満たないで半身不随など

とは神も仏もないものかと、愕然とした。当然、両親である次男と嫁の落胆振り目は目を覆いたくなるほどであった。

通勤途中の駅のすぐ前が病院であったため、嫁の迷惑を顧みず毎日のように見舞いを続けた。一週間後、孫の右半身の麻痺は、治療の効果か嘘のようになくなっていた。

ただ、左腕に点滴の器具をつけられ、右腕が動いていたときは、器具をはずそうとするため、器具を右腕に付け替えられた。さらに右腕の麻痺により、左腕を使うこととなり、入院するまでは、右利きであったが、退院後は左利きとなってしまった。

髄膜炎は悪くすると命を落とすことになったり、半身不随の後遺症が残ったりと不幸なことになるようだ。孫は、幸い順調に成長し、この春高校三年生に進級した。

(井野 薄井 隆)

五月雨

いや、雨ですな。つい先頃迄、お天道様がカーツと照りつけていたのが嘘の様な御陽気でございました。こう、まるで四万六千日の最中の様な暑さかと思えば、今度はお炬燵で爛でもキユツとひっかけたくなる様な塩梅で。いやはや全くお天氣の神様つてえ方も、お人が悪い。こりやあ、アタシの様な五十そこそこの鼻つたれ小僧でも、音をあげるともんです。いやホントですよ。もう毎晩毎晩ホトホト困り果てております。「いや晩酌は、キンッキンに冷えたビールにしようか、人肌につけたヤツにしようか」って。もう南西の辺りは、梅雨入りしてございます。もう、この文集が出る頃には、御当地も梅雨の雨だれの音を聞いている事でしょう。しかし、なんでしよう、この極端な気象は！祖国日本は本来、四季

のはつきりした所でした。優しい日差し、春、輝く景色の夏、物憂げな思いに耽る秋、そして、厳しさの中にもどこかやすらぐ冬、と。

なんですか、昨今声高に叫ばれております「ストップ！地球温暖化！」私ども地球人類の身勝手、大地、大気、海面の温度まで上昇しているとしたら、そりやあ悲しいじやありませんか。どこが？何をおっしゃってるんですか、アナタ！こりや、言ってみれば、「ゆるやかな自殺」なんですな。自分自身で、ゆっくりジワジワと首を絞めている様なものでございます。「エ कोरो！」と喚くつもりはありませんが、せめて、自分らで、もう一度四季を取り戻してみようじゃないですか。長雨です。強い雨です。なんだか、雨にうたれて柄にもない事をかんがえました。今年の五月雨はいかがでしょうか。

(中志津 松井史郎)

「エコライフ」のすすめ

みなさん、生活の光熱水用エネルギーを大切に使いましょう。そして、お宅での電気や水道、ガス等の契約を見直してみませんか。これらの料金体系は、殆んどが、基本料と使用料で構成されています。基本料は、一年間での使用量の最大値等で決まります。

これは、瞬間の最大使用量を抑えれば安くできます。使用料は、毎月の合計使用量で段階別単価が決まります。一ヶ月の合計使用量を抑えれば高い単価も抑えられます。お宅では、入居した時の基本料契約のまま無駄な支出をしていませんか？

さて、今回は、我が家の「電気契約」を見直した結果を説明させていただきます。

現在の家に入居して七年になります。見直しは今年二月に行ったのが初めてです。

東電(株)に契約容量確認を依

頼(無償)したところ数日の内に記録計を取付けにきて、約十日間の後に回収に來られ更に十日間位で調査結果の表とグラフが届けられました。

このデータを検討した結果現在の100A契約に対し55Aが最大なので契約も60Aに下げられることが判りました。そして直ちに東電(株)に依頼すると数日後にブレーカー工事(無償)に來てくれ、料金は依頼した日から低減されました。契約「電化上手」容量を100A 60Aに変更したことにより、毎月の基本料が2,000円 1,260円に840円も下がり年間で10,080円の見直し効果が七年目にして得られ遅まきながら幸せを感じています。

我が家では、この他に水道や井戸についても、当初の半額近くまで削減させています。プロパンガスの場合も業者変更で料金が半減することもありますが、ご確認下さい。

(上座 佐藤征雄)

6月の黒板

『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043 - 485 - 1801

〒285 - 0025 佐倉市錦木町198 - 3

さくら道

定額給付金の支給が始まった。屁にもならないが何に使うか、落語に「御慶」という噺がある。八五郎の家では苦しい台所事情をめぐって、お決まりの夫婦げんか。そこで窮状脱出に富くじにかけようというのである。

「なんでもいいから一分だけ都合しろいッ、いい夢えみたいんだからよう」。

さて、八五郎が見た夢とは梯子のてっぺんで鶴が羽を広

げていたというものだった。だから鶴は千年で千、梯子を八四五と読み、鶴の千八百四十五番を買おうとするがその番号は既に売り切れ。落胆するが梯子は下から登るものと手相見に言われ、鶴の千五百四十八番を買う。それが見事一の番の当たり、大はしゃぎする八五郎の姿はほほ笑ましくなんともおめでたい。だが「芝浜」という噺では正夢と現実の教訓を語っている。桑原、桑原。

（永見 一）

あとがき

「縁」あつて、幼い頃おばあ様と一緒に車窓から見た田園風景の佐倉で、天職を活かせる念願のお仕事に就かれた喜びのお気持ち伝わります。ご活躍をお祈りします。

「孫の入院」を拝読して胸にジーンと来るものがありました。が、読み進むうちにほっとした安堵感と心温まるものを感じました。

「五月雨」。同感ですね！今の気象は真夏日があるかと

思うと肌寒い日があり、晩酌はビールにしようか熱燗にしようかと一思索。しかし、ビール党の私はひたすらビールで「SKOL」。

「エコライフのすすめ」は正に生活のアドバイスでした。子供たちも独立して七、八年。我が家の光熱費の見直しなど思いも付きませんでした。が、早速お知恵拝借。電気料金の見直しを考えています。ご投稿ありがとうございました。

（原田和行）